

# 2022 年度の山口大学の国際交流活動



山口大学国際戦略室



## 目次

はじめに .....	1
<b>第1章 2022年度の国際戦略室の活動 .....</b>	<b>2</b>
1. 国際戦略室の組織と役割 .....	3
2. 2022年度の本学の国際連携活動 .....	3
3. 国際交流協定 .....	18
(1) 2022年度の国際交流協定の締結等 .....	18
(2) 大学等間国際交流協定 .....	18
(3) 部局等間国際交流協定 .....	22
4. 海外拠点 .....	25
5. 本部への海外からの来訪者 .....	26
6. 本学学長の海外訪問 .....	27
7. 国際ネットワークとの連携 .....	27
8. 研究者の交流 .....	27
9. 職員の研修 .....	28
10. 学内の国際化推進体制の整備 .....	30
11. 海外同窓会活動 .....	31
<b>第2章 2022年度の留学生部門の活動 .....</b>	<b>32</b>
1. 留学促進のための環境整備 .....	36
2. 海外学生交流促進のための広報活動 .....	36
3. 留学生センターにおける学生派遣 .....	36
<b>第3章 2022年度の学術研究部門の国際交流活動 .....</b>	<b>37</b>
独立行政法人日本学術振興会助成 .....	38
1. 論文博士号取得者に対する支援事業 .....	38
2. 二国間交流事業（共同研究・セミナー） .....	38
3. 外国人研究者招へい事業 .....	39
4. 国際共同研究事業 .....	40
<b>第4章 2022年度の各部局の国際交流活動 .....</b>	<b>41</b>

はじめに

山口大学は「発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場」を理念として、人間力とバイタリティーあふれる人材を輩出できる大学、教員と学生が共に育つ「共育できる大学」を目指しています。この「共育」には、大学と地域が連携してグローバル化の中で共に学び発展すること、留学生や研究者を迎え、送り出すことによって、それらの国々と日本が相互の理解を深め、協力し合って平和で持続性のある世界を目指して手を携えるという意味も含まれています。これらの認識に基づき、本学はグローバル化を総合的に推進するとともに、留学生を含む全ての大学人が、互いの歴史、文化、民族、言語、宗教などの違いを超えて、共感・共鳴・協奏できる「ダイバーシティ・キャンパス」の実現を目指しています。

山口大学は、大学グローバル化推進に際し、学長のリーダーシップが十分に発揮できる意思決定及び組織体制を構築するため、2016年6月に「国立大学法人山口大学における国際戦略に関する規則」を制定し、学長のリーダーシップのもと、国際戦略室は関連する学内外の組織とも連携を深めながら、大学の国際化について様々な議論を重ね、大学グローバル化に向けた活動を推進しております。

2022年度は、長期間に及んだ新型コロナウイルス感染症が収束期を迎え、制限を受けていた大学の国際交流活動は少しずつ再開されました。また、感染症流行下に普及した、オンラインを活用した学生交流やセミナーの共同開催なども継続して行い、各部局で国際交流活動を実施してまいりました。今後もオンラインツールを引き続き有効に活用するとともに、実渡航を伴う国際交流活動の更なる活性化に向けて取り組んでまいります。

本報告書では、第1章にて本学における国際化に向けた取り組みを2022年度の国際戦略室の活動をもとに取り纏め、留学生部門、学術研究部門にて実施された国際交流事業をそれぞれ第2章、第3章に掲載いたしました。また第4章には、各部局の国際活動の取り組みを掲載しております。

この報告書により、学内のみならず本学に関係される多くの方々、大学を取り巻く地域の方々に、本学の国際化の状況について広く知って頂く一助になれば幸いです。同時に、報告書をお読み頂いた方々から、多くの貴重な意見を頂くことができれば、本学の国際化推進に役立つものと期待しています。これからも大学内外の関係者の皆様にお知恵をお借りしながら、積極的に山口大学の国際化を推進してまいりますので、皆様方の力強いご支援をお願いいたします。

国際戦略室

## 第 1 章 2022 年度の国際戦略室の活動

## 1. 国際戦略室の組織と役割

2016年5月30日に、本学における教育、研究及び社会連携活動のうち国際的な活動に係る戦略の企画、立案及び実施に向けた方策を決定するため、「国立大学法人山口大学における国際戦略に関する規則」を制定した。本規則により、本学の国際戦略に関しては学長が決定を行い、国際戦略に基づいた本学の教育研究の国際交流及び研究成果を基盤とした国際社会への貢献を推進するため、山口大学国際戦略室が置かれています。

国際戦略室は、国際連携担当副学長及び教職員を構成員とし、以下の業務を行っています。

- (1) 本法人の国際連携に係る企画、立案及び実施に関すること。
- (2) 国際交流に関する情報の収集、整理及び提供に関すること。
- (3) 国際協力・国際貢献活動に関すること。
- (4) 国際交流協定に基づく活動の推進に関すること。
- (5) 海外に向けた本学の国際交流に係る情報の発信に関すること。
- (6) その他前条の目的を達成するために必要な事項

毎月1回構成員による国際戦略室会議を開催し、上記業務に関する事柄について協議及び情報共有を行っている。

また、国際戦略室の活動を支援する事務組織として、学生支援部国際交流課が置かれ、国際戦略室と共に本学の国際化に関する企画立案及び実施を担っています。

## 2. 2022年度の本学の国際連携活動

### ○在ハワイホノルル、カウアイ山口県人会が来学されました

2022年8月29日（月）に、在ハワイホノルル山口県人会からゲイル・ワカタケ会長、及びカウアイ山口県人会からシェリル シンタニ カウアイ会長をはじめとする総勢12名が吉田キャンパスに来学されました。27日（土）に行われた山口県とハワイ州の姉妹提携締結調印式出席のために山口県を訪問され、それに引き続き来学されたものです。

午前中は教育学部附属山口小学校にて児童と文化交流を行い、午後、吉田キャンパスに移動しました。最初に石井 由理 副学長（国際連携担当）から「今回の訪問はコロナ禍以降最初の海外からの公式訪問であり、歴史的にも深い繋がりのあるハワイから皆様をお迎え出来ることは光栄」との歓迎の挨拶を述べた後、キャンパスツアーを実施しました。ツアーでは、ハワイ大学カウアイコミュニティカレッジ（以下、KCC）に交換留学をしていた国際総合科学部3年の山口 紗永さんにガイドを担当してもらいました。ツアーでは、ハワイのお土産で有名な「ハワイアンホースト」の創始者が本学教育学部前身の師範学校の卒業生であることを紹介し、加えて植物工場、及び農学部附属農場を見学しました。

ツアー終了後は図書館にて交流イベントを実施し、第1部では、国際総合科学部の杉井 学教授からハワイ移民に関する研究紹介を行いました。第2部では、シェリル会長から、カウアイ山口県人会と本学の連携について紹介いただきました。本学はカウアイ山口県人会と

2018年9月に連携協定を締結し、本学学生がKCCへ留学した際には様々なサポートを提供いただいています。その後、本学—KCC間交換留学プログラム参加学生が、KCCでの留学体験、及び本学での留学体験をそれぞれ報告しました。最後は、この8月にKCCでの交換留学を開始した2名の学生から、同様に現地ハワイからオンラインで近況を報告しました。

今回の来学はハワイの皆様にも山口大学をより知ってもらう機会となり、学生交流のみならず様々な分野での関係を構築し、歴史的な繋がりを背景とした特徴ある教育・研究へと発展することが期待されます。



---

#### ○シーナカリンウィロート大学（タイ）から本学へ表敬訪問がありました

2022年9月12日（月）、本学の国際交流協定校であるタイのシーナカリンウィロート大学から社会科学部地理学科（Department of Geography、Faculty of Social Sciences）・学科長の Dr.Chomchanok ほか7名が本学を表敬訪問されました。シーナカリンウィロート大学と、本学の応用衛星リモートセンシング研究センターはリモートセンシングやGIS（地理情報システム）の分野で提携を希望しており、今後の提携について協議するために来日されました。

本学からは上西 研 理事（学術研究担当）、石井 由理 副学長（国際連携担当）、長井 正彦 教授（応用衛星リモートセンシング研究センター長）が出席され、懇談が行われました。表敬訪問では、まず上西理事から来訪を歓迎する挨拶があった後、石井副学長から山口大学の紹介が行われました。これに対してシーナカリンウィロート大学から、先方大学出身の留学生や交換留学プログラムについて質問がありました。また、応用衛星リモートセンシング研究センターとの今後の提携についての期待を述べられました。

シーナカリンウィロート大学と本学は、研究分野での交流をきっかけに2001年に大学間協定を締結しました。現在では、国際総合科学部との交換留学プログラムや、工学部の海外技術研修プログラム先になるなど、学生交流にも発展しています。

今回の来訪をきっかけに、両大学間の研究交流・学生交流がより一層活発になる事が期待されます。





### ○ウダヤナ大学（インドネシア）から本学へ表敬訪問がありました

2022年9月27日（火）、本学の国際交流協定校であるインドネシアのウダヤナ大学から海洋水産学部の I Wayan Arthana 教授、ABD Rahuman As Syakur 講師、そして工学部の Wayan Gede Ariastina 講師の3名が来学されました。今回は、本学の応用衛星リモートセンシング研究センター（YUCARS）との共同研究の打合せで来学されました。

表敬訪問の際には、石井 由理 副学長（国際連携担当）の他、富本 幾文 国際連携担当副学長補佐、YUCARS の大澤 高浩 教授、江口 毅 助教が出席され、懇談が行われました。懇談会では、I Wayan Arthana 教授と大澤教授から、YUCARS とウダヤナ大学で実施している研究内容について紹介がありました。これを受けて石井副学長から、今後も共同研究において緊密な連携を実施していただきたいとのメッセージがありました。また、両大学の交換留学について情報交換を実施しました。

ウダヤナ大学とは2010年に大学間国際交流協定を締結して以来、研究・学生交流を緊密に実施しています。その他にも、本学職員の人材育成を目的に実施しているSD（スタッフ・ディベロップメント）研修の派遣先大学である他、ウダヤナ大学内には、山口大学国際連携オフィス（バリ国際連携オフィス）を設置しています。

今回の来訪をきっかけに両大学間の交流、さらには、本学にとっての重点拠点国であるインドネシアとの交流がより一層活発になる事が期待されます。



## ○駐日英国大使館から本学に表敬訪問がありました

2022年11月8日(火)に、駐日英国大使館から、ジュリア・ロングボトム駐日英国大使、ジェシカ・ウェルズ書記官が本学を表敬訪問されました。また、山口日英協会、および本学大学院技術経営研究科の林 裕子 特命教授が本表敬訪問に同行されました。ロングボトム大使は、8日(火)に行われた、山口日英協会創立20周年を記念した講演会に出席されるために山口県を訪問され、それに伴い来学されたものです。

はじめに、10月2日(日)に開催されたイングリッシュオークの木スケッチ大会の作品展示会を谷澤 幸生 学長、石井 由理 副学長(国際連携担当)が案内しました。スケッチ大会は、平成14年度から県内9か所に植樹されているオークの木を巡回しながら実施しています。主に小学生が対象で、13回目となる今年度は、山口大学吉田キャンパス前庭に植えられているオークの木をスケッチしたものになります。

続いて、長州五傑顕彰碑、英国大使から贈呈いただいたオークの木を見学されました。谷澤学長から、オークの木は、2007年、当時のグレーム・フライ駐日英国大使より、UCLと山口大学の交流促進を祈念して贈られたものであり、エリザベス女王陛下が1975年に日本を訪問された際に東京の英国大使館の中に植えられたオークから実生で育っていた若木を頂戴したものとの説明がありました。その後、イングリッシュオークの前で記念撮影を行うなど、終始和やかな雰囲気で行われました。

今回の来学はロングボトム大使にも本学とイギリスとの繋がりをより知ってもらう機会となりました。今後、歴史的な繋がりを背景とした特徴ある教育・研究へと発展することが期待されます。





## ○廣木重之前スウェーデン大使による特別講演会を開催しました

2022年11月9日（水）及び10日（木）に、廣木 重之 前駐スウェーデン王国特命全権大使を招いて、国際交流課及び経済学部共催による特別講演会「スウェーデン社会とSDGs」（英文：Swedish Approach to SDGs）を開催しました。両日の講演会には、本学在学の学生・留学生に加えて教職員も参加し、同大使の講義を熱心に聴講しました。

同大使は、駐スウェーデン、駐南アフリカ、駐アフガニスタン大使、及び儀典長などの経験談を踏まえて、コミュニケーションの手段を備え、異文化を体験することで広く世界を知ることができること、自分の強みも弱みも生かして、多様性を尊重し、自分らしく生きることが必要であること、国際社会を生きるために、「まず知ること、そして自分について知ること」の大切さを強調されました。

続いて、SDGs（持続的開発目標）の達成ランキング（2020年）において、スウェーデンが世界第1位であること（日本は17位）を説明した上で、SDG5（ジェンダー平等）に関連し、同国の女性の活躍の姿、ライフ・ステージに応じた社会福祉の状況、福祉国家への歩みを解説されました。

また、同国の環境政策（SDG12、13、14、15）については、「自然にかえせる量の資源しか取らない。地下より地上のエネルギーを選ぶ。生物の多様性を尊重する。」を重視していること、さらに、SDG16（平和と公正をすべての人に）については、同国が1814年から2022年まで「中立国」であったことなどを解説した上で、現在のウクライナの状況を踏まえ、参加した学生を数名壇上に招き、ロシア、ウクライナ、アメリカ、国連の首脳の言い分を主張し合うロール・プレイを行いました。

講演終了後、同大使夫人は、大使と共に外交の場で互いに支え合いながら歩まれたことなどを話されました。

参加した学生・留学生・教職員からは、「大使の豊かな経験を踏まえた大変興味深い講演であり、有意義な内容であった。」との感想が聞かれました。



## ○中国の山東大学と国際交流協定書更新に係るオンライン署名式を行いました

2022年11月15日（火）、本学の国際交流協定校である中国の山東大学と国際交流協定書更新に係るオンライン署名式を行いました。これは山東大学と締結している国際交流協定が10月に協定の期限を迎え、また両大学の学長が今年度から新しく就任したことから、懇談の場を設けることも兼ねて行われたものです。

本学からは谷澤 幸生 学長、葛 崎偉 特命理事・副学長（教育学生担当）、石井 由理 副学長（国際連携担当）、そして経済学部の袁 麗暉 准教授が通訳として参加しました。山東大学からは、李 術才 学長ほか6名の出席がありました。オンライン署名式では、まず初めに山東大学が作成した両大学の交流・協力を振り返る動画が上映され、動画を通して両大学の交流の歴史が深いことを振り返ることが出来ました。次に、谷澤学長が開会の挨拶として、6月に学長に就任された李学長へのお祝いの言葉に加え、山東大学は、山口大学が初めて国際交流協定を締結した外国の学術機関であることから、本学の国際交流の歴史は、山東大学との交流の歴史でもある旨、述べました。これに対し、山東大学の李学長からは、1983年の国際交流協定の締結以降、交流者は150人以上、両国への渡航回数は50回以上であり、長きにわたる研究者交流や学生交流の実績と今後の交流発展への期待が述べられました。その後、この度更新する協定書に両大学の学長および副学長が署名をし、国際交流協定を無事に更新することができました。

オンライン署名式を通して、コロナ終息後は対面での研究交流、学生交流、教職員交流を再開していきたいことを改めて確認ができました。今後も今回更新した国際交流協定のもと、交流が活発に行われ、両大学の絆がさらに深まることが期待されます。



## ○同志社大学・兼原特別客員教授による特別講演会を開催しました

2022年11月30日（水）に、同志社大学の兼原 信克（かねはら のぶかつ）特別客員教授を迎えて、「ウクライナ戦争から考える国際連合と平和構築」と題した講演会を開催しました。同教授は山口県の出身であり、外務省入省後、在米日本大使館公使、総合政策局参事官（国連担当大使）、在韓国日本大使館公使、国際法局長、内閣官房副長官補兼国家安全保障局次長などを歴任しました。

講演では、2022年2月に、ロシアがウクライナに侵攻した経緯について、両国の歴史的な背景を踏まえて解説した上で、ロシアが西側先進国（日本、韓国、豪州などを含む）の価値観（自由と平等、人権尊重、議会主義など）を十分に理解できず、ひとたび一人の人間に巨大な権力が集中すると誰も批判が出来なくなり、権力者が道を間違える危険性があると指摘しました。そのロシアが国連安保理事会の常任理事国のメンバーであることから、国連は機能することが出来ないことは極めて残念であるとも述べられました。その上で我々は何をなすべきかという点については、「人間の良心に従い、協力しあい、自由で民主主義的な制度の上で互いに話しあうことが重要である」ことを強調されました。

講義後、学生から「ロシアがウクライナの独立を認めず自国の一部のように振る舞っている点から見て、国境や領土という概念がそれほど重要か？」という質問があり、これに対して兼原教授は、「最も重要なことは住んでいる人々の自由な意志を尊重することである。」と述べられました。

また、「幾つかの国で独裁的な指導者が排除されないのは何故か？」という質問に対しては、「前近代的な社会は国王などの権力者層とそれ以外の従属層という単純な社会構造であり、強権的な国王などが排除されることが比較的容易であったが、現在の社会は組織構造が複雑であり、独裁者を取り巻く権力構造は容易に排除されないこと。また、それらの国々では自分たちの生活が安定し、個々人の生活に国家が過度に介入してこない限り、従順な態度を保持する傾向がある。」と述べられました。

講演に参加した学生にとって、国連や外交の場で長年活躍された郷土出身の外交官の講演を直接聞くことは大変貴重な機会であり、本学としては今後もこのような機会を継続して企画していく予定です。

なお、今回の講演会に併せて、総合図書館の一階フロアにおいて「SDGs と JICA」と題する展示会を3週間に亘って開催しました。





## ○ハイメ1世大学（スペイン）から本学へ表敬訪問がありました

2022年12月19日（月）から22日（木）にかけて、本学の国際交流協定校であるスペインのハイメ1世大学からスポーツセンター・チーフアカウンタントのJuan María Beltrán Ferrer氏が来学されました。本学は同大学と2017年10月に国際交流協定を締結しています。同大学とは、とくに分離膜の分野で本学創成科学研究科（工学系領域循環環境工学分野）の熊切泉教授を中心とした共同研究や、交換留学などの学生交流を実施しています。

訪問の初日は、石井由理国際連携担当副学長及び国際交流課の職員との懇談会が行われました。ハイメ1世大学の紹介ビデオでは、本学から同大学に留学した学生が、充実した留學生生活を送っていることを知ることが出来ました。懇談会の後は、外国人留學生・研究者のための宿泊施設を見学しました。

2日目は、留學生副センター長の宮永 愛子 准教授から本学の日本語授業の概要の説明後、実際に日本語授業の様子を見学しました。その後、スポーツ観光講座について研究をしている、経済学部の西尾 建 准教授から山口県の観光資源を生かしたスポーツ観光について説明を受けました。また、学生支援部学生支援課の斉藤 康平 係長が山口大学のスポーツ施設の概要を説明し、その後、施設を見学しました。

3日目は、本学の総合図書館と、商品資料館を見学しました。その後、スペインへの留学を希望している本学学生に向けてBeltrán Ferrer氏からハイメ1世大学の大学紹介がありました。大学紹介では学生14名、教職員6名が参加しました。学生は熱心にハイメ1世大学のプレゼンテーションを聞き、終了後も留学を希望する学生から、ハイメ1世大学での留學生生活について多くの質問が寄せられました。

最終日の午前中は、小串キャンパスと大学附属病院を訪問しました。普段関係者以外入ることが出来ない、ドクターヘリとヘリポートを見学でき、本学附属病院が山口県の中核病院として、地域に貢献していることが分かりました。

午後からは常盤キャンパスを訪問しました。常盤キャンパスでは、志道場を見学しました。最後に創成科学研究科の熊切 泉 教授の研究室を訪問し、研究室の学生にハイメ1世大学の紹介を行いました。学生からは、ハイメ1世大学へ訪問したいとの発言がなされるなど、終始和やかな雰囲気学生との交流が行われました。

今回の訪問をきっかけに、本学とハイメ1世大学との交流が、研究交流及び学生交流で活発に実施されることが期待されます。本学では今後もこのような交流を行うことでハイメ1世大学と本学との協力関係が強固で実りあるものになる事を期待します。







### ○釜山外国語大学校（韓国）から本学へ表敬訪問がありました

2023年1月12日（木）、本学の国際交流協定校である韓国の釜山外国語大学校から日本語融合学部の平中 ゆかり 教授、国際学生支援チームの鄭容官氏が来学されました。釜山外国語大学校は2014年に国際交流協定を締結して以来、交換留学生の派遣・受入れを相互に実施しており、学生交流を中心に交流を進めています。

当日は、本学と釜山外国語大学校の交流状況について、富本 幾文 国際連携担当副学長補佐と懇談を行いました。富本副学長補佐から山口大学の概要や、交流の中心部局である本学の国際総合科学部との交流状況について説明がありました。これを受けて、平中教授から協定を締結して以来、毎年多くの交換留学生の受入実績に対して感謝の意が述べられました。

その後、国際総合科学部教職員、国際交流課との懇談を行いました。本学からは、来年度の学生の派遣予定について、また、現在本学に留学している先方大学学生の生活状況について説明がありました。これを受けて平中教授から、山口大学に留学した先方大学学生の満足度が高いことについて説明がありました。



## ○2022 年度 JICA (国際協力機構) 「青年研修イラク国地方行政コース」を実施しました

2022 年度の JICA (国際協力機構) 委託事業として「青年研修イラク国地方行政コース」を、2023 年 1 月 16 日から 1 月 31 日までリモートで実施しました。

本研修プログラムは、イラク国の地方行政分野の若手研修員 6 名 (女性 4 名、男性 2 名) を対象として、日本の中央政府と地方自治体の関係などについて理解し、これらを参考に同国における中央、地方の公務員制度改革、地方自治・地方分権化のそれぞれの課題解決のための糸口を模索することを目的としています。

同プログラムの前半では、本学経済学研究科公共管理コースの西山 慶司 教授より「ニューパブリックマネジメント (NPM) と政策評価」という講義があり、さらに富本 幾文 教授 (特命) により、「日本の地方行政システムの概要」、「地方財政」、「日本の公務員制度」、「e-government」などの講義がありました。

後半では、山口県により「山口県政」と「予算」の説明があり、山口市については、「山口市リサイクルプラザ」の説明と「山口市清掃工場」のビデオを視聴しました。美祢市では、美祢市長の挨拶 (ビデオ) と「美祢市の概要」、「ジオパークを活用した地域づくり」の説明があり、萩市では、萩市長の挨拶 (ビデオ) と「萩まちじゅう博物館」、「市民総合窓口」の説明がありました。

2 週間の研修において、各研修員からは日本の課題や地方自治の状況を学び、イラク国の地方分権と社会経済発展のために生かしたいとの表明がありました。

なお、本学経済学研究科公共管理コースは、本部国際交流課とともに、これまでバングラデシュ、カンボジア、中央アジア、ヨルダンなどの青年研修 (地方行政) を受託し、さらにアフリカ理数科教員の研修も JICA より受託しています。



## ○谷澤学長がカセサート大学 80 周年記念式典に出席しました

2023 年 2 月 2 日 (木)、本学の国際交流協定校であるタイのカセサート大学にて、カセサート大学創立 80 周年記念式典が開催され、山口大学から、谷澤 幸生 学長、山田 守 学長特命補佐らが出席しました。

カセサート大学と本学は、1998年に大学間協定を締結して以来、中高温微生物研究センターの発酵微生物分野を中心とした研究拠点形成事業等をとおして活発な交流を行っているほか、また2020年には大学院の教育課程として、国際連携農学生命科学専攻（ジョイント・ディグリー・プログラム）を設置し、研究・教育面共に活発な交流が行われています。

今回の記念式典では「グローバルな目標のための高等教育とリーダーシップ～持続可能な開発とその先に向けて～」をテーマとしたフォーラムが開催され、谷澤学長は「カーボンニュートラルなクリーン社会と明るい未来に向けて」をテーマに基調講演を行いました。

また、式典終了後には、本学の中高温微生物研究センターと先方大学のバイオダイバーシティセンターとの共同研究に関する協定書の締結式が執り行われました。本協定は耐熱性微生物に関するデータベース構築と共同研究に関する協定で、今回の締結により同大学との共同研究がますます活発になる事が期待されます。



#### ○ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン（イギリス）から本学へ表敬訪問がありました

2023年3月2日（木）から3日（金）、本学の国際交流協定校である、イギリスのユニバーシティ・カレッジ・ロンドン（UCL）から、UCL リスク・減災研究所（Institute for Risk and Disaster Reduction）の David E. Alexander 教授が来学されました。

2日には、山口大学地域防災・減災センターと山口大学グローバル環境・防災学研究会主催の“The 4th International Seminar on Disaster Prevention and Environment”が開催され、David E. Alexander 教授よりコロナ禍における災害リスクマネジメントや防災・減災に関する講演が行われました。

3日には、吉田キャンパスにて UCL と山口大学間の研究交流や学生交流についての協議が行われ、本学からは上西 研 理事（学術研究担当）、石井 由理 副学長（国際連携担当）、応用衛星リモートセンシング研究センター（YUCARS）の大澤 高浩 副センター長、江口 毅 助教が出席しました。また、YUCARS の長井 正彦 センター長、大澤 高浩 副センター長、江口 毅 助教を交えて、両大学における活動や今後の提携について情報・意見交換が行われました。





### ○香港大学医学部看護学科から本学へ表敬訪問がありました

2023年3月9日(木)、昨年度本学医学部と部局間国際交流協定を締結した香港大学医学部看護学科から、Dr. Polly Chan、Dr. John Fung、Dr. Esther Loの3名が来学されました。

本学医学部保健学科では、看護・健康科学領域の学生の専門的能力を伸ばし、将来、国際的に活躍できるようなリーダーを育成することを目的とし、5大学(チェンマイ大学・マヒドール大学(タイ)、梨花女子大学(韓国)、香港大学(香港)及び山口大学)によりAP AHL(Asia Pacific Alliance of Health Leaders、通称:エイパル)を組織しています。毎年各校が輪番で学術・交流フォーラムを開催しており、今回は2023年11月に香港大学で開催予定のAPHAL、及び共同研究についての打合せで来学されました。

本学からは、石井 由理 副学長(国際連携担当)、富本 幾文 国際連携担当副学長補佐、また、大学院医学系研究科(保健学専攻)から村上 京子 教授、伊東 美佐江 教授、沓脱 小枝子 講師が出席され、懇談が行われました。表敬訪問では、まず石井副学長から来訪を歓迎する挨拶があった後、山口大学の紹介が行われました。香港大学のDr. Polly Chanからは、2023年度に開催予定のAPHALについて説明がありました。また、各大学の学生同士が情報交換をし、海外の大学と活発に交流をするAPHALはとても重要な取組であるため、今後も山口大学と緊密な連携を進めて行くという、強いメッセージがありました。





### ○ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン（イギリス）から本学へ表敬訪問がありました

2023年3月14日（火）、本学の国際交流協定校である、イギリスのユニバーシティ・カレッジ・ロンドン（UCL）から、語学・国際教育センターの安部祥依氏が来学されました。今回は、UCLが実施し、本学工学部が参加している語学研修プログラムについての紹介と打合せで来学されました。

本学からは、石井 由理 国際連携担当副学長、経済学部の大岩 隆明 教授、八代 拓 准教授、関係部局の国際交流担当事務職員の総勢10名が出席しました。懇談会では、安部氏から、UCLが今後実施する語学研修プログラムについての紹介がありました。その後、両大学の交換留学の実施状況について情報交換を行いました。

UCLとは2007年に大学間国際交流協定を締結して以来、医学部や工学部の研究交流を中心に実施しています。近年では防災分野での研究交流もスタートし、交流の領域を拡大させています。また、学生交流では、本学工学部においてUCLが実施している語学研修に参加するなど、充実した研究・学生交流を実施してきました。

今回の表敬訪問をきっかけに、UCLとの関係がより強固なものになる事が期待されます。今後も学生交流はもちろん研究交流においてもUCLと密なる交流を行ってまいります。



### ○ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン（イギリス）の Peter Sammonds 教授による講演会「難民の災害リスク軽減のために～バングラデシュにおけるロヒンギヤを対象として～」を開催しました

2023年3月23日（木）に、英国のユニバーシティ・カレッジ・ロンドン（UCL）から Peter Sammonds 教授が来学されました。Sammonds 教授は UCL リスク・災害軽減研究所（IRDR）の前所長で、現在は同研究所ジェンダーと災害研究センター主導のプロジェクト（GRRIPP：Gender Responsive Resilience & Intersectionality in Policy and Practice-Networking Plus Partnering for Resilience）の Gender and Intersectionality Ambassador を務め、自然科学と社会科学双方の領域から、災害に関する研究活動を行っています。

当日は午前中に常盤キャンパスで工学部を訪問され、本学の防災や応用衛星リモートセンシング分野の研究活動について情報収集した後、吉田キャンパスで「難民の災害リスク軽減のために～バングラデシュにおけるロヒンギヤを対象として～」をテーマとして講演会を実施し、教職員・学生約20名が参加しました。

講演会では、UCL と長州五傑の歴史的な繋がりを冒頭に触れられ、阪神大震災や東日本大震災等への自身の調査研究活動、国境紛争地帯における環境災害に対する回復力向上とロヒンギャ難民のその回復力の前途に関するプロジェクトの研究メンバーとして開発した、地すべり早期警報システム（EWS）の紹介がありました。EWS 開発において調査対象となった、バングラデシュ南東部のコックスバザール地区のロヒンギャ難民キャンプについて、竹等で作られた簡易的な住居に暮らしているため、同地域がサイクロン、洪水、地滑り等の自然災害に脆弱である現状を、映像を交えて説明されました。

講演には、バングラデシュやネパール出身の留学生も聴講しており、質疑応答ではロヒンギャの避難先である近隣国のみでは解決できず、ロヒンギャ難民問題への世界的な関与が必要である等の発言があり、Sammonds 教授との活発な意見交換が行われました。講演後には、吉田キャンパス内にある長州五傑の碑に立ち寄られました。

本学は UCL と 2007 年 11 月に大学間協定締結以降、化学、防災、眼科学分野を中心に学術交流を継続しています。今後も同大学との交流を通じて、学生や教職員に国際感覚を醸成する機会を提供していきます。



### ○カセサート大学（タイ）から本学へ表敬訪問がありました

2023 年 3 月 24 日（金）、本学の国際交流協定校であるタイのカセサート大学から学長の Dr. Chongrak Wachrinrat 他、工学部教員、国際交流課職員の総勢 11 名が本学を表敬訪問されました。今回は本学工学部との学生交流プログラムについての協議、学生の学習環境の視察を目的に来日されました。本学工学部からは山田 陽一 工学部長、鵜 心治 副学部長、三上 真人 教授、吉本 誠 教授、山口 真悟 教授、間普 真吾 教授、そしてカセサート大学修士課程を修了後、本学大学院創成科学研究科博士後期課程に進学した Mr. GERDPRASERT THANAWIT が参加しました。まず初めに、山田工学部長から歓迎の挨拶があった後、本学工学部教員が、カセサート大学と実施している短期インターンシップや、本学の研究について紹介しました。また Mr. THANAWIT からは、山口大学での学生生活について、タイでの学生生活との違いを説明しながら紹介しました。カセサート大学からは各紹介に対して質問があり、活発な意見交換や情報交換が行われました。また、キャンパスツアーを実施し、工学部学生によるポスターセッションが行われました。

懇談会の後は本学とカセサート大学間が締結している大学間国際交流協定、学生交流に関する附属書、そして本学の中高温微生物研究センターとカセサート大学のバイオダイバーシティセンターとの菌株移植に関する同意書に係る調印式を執り行いました。調印式には、谷澤 幸生 学長、石井 由理 副学長（国際連携担当）、阿座上 弘行 中高温微生物研究センター長、山田 守 学長特命補佐が出席されました。調印式の後には昼食懇談会も開催され、終始和やかな雰囲気での懇談が行われました。

カセサート大学とは1998年に大学間国際交流協定を締結して以来、特に農学部や中高温微生物研究センターを中心に交流を実施してきました。今回の本学工学部への表敬訪問とおして工学部について理解を深めていただくと同時に、本学の教員および学生にとって、交流の可能性を広げる良い機会となりました。今後、両大学間の研究交流・学生交流がより一層活発になる事が期待されます。



### 3. 国際交流協定

#### (1) 2022 年度の国際交流協定の締結等

2022 年度は国際交流協定を 4 大学(大学間・学部間) と締結し、19 の大学・機関(大学間 14 大学・機関、学部間 5 大学・機関)と更新した。

その結果、2022 年 3 月末現在で、山口大学は大学等間では 23 カ国・地域の 107 大学・機関と国際交流協定を締結し、学部等間では 9 学部、3 研究科が 25 カ国・地域の 66 大学・機関と国際交流協定を締結している。

#### (2) 大学等間国際交流協定

国・地域名	機関名 (英語表記)	締結年月日	学生交流 覚書
インドネシア	ブラウィジャヤ大学 (Brawijaya University)	2008.04.15	有
	ガジャマダ大学 (Gadjah Mada University)	2008.10.14	有
	ボゴール農科大学 (IPB University)	2010.03.10	有
	ウダヤナ大学 (Udayana University)	2010.03.25	有
	バンドン工科大学 (Bandung Institute of Technology)	2012.05.25	有
	インドネシア大学 (University of Indonesia)	2015.12.16	有
	地理空間情報庁 (Geospatial Information Agency)	2016.07.20	
	財務省財政均衡総局 (Directorate General of Fiscal Balance, Ministry of Finance)	2015.03.10	
	シャリフ・ヒダヤトゥラー イスラム宗教国立大学 (Syarif Hidayatullah State Islamic University Jakarta)	2018.10.18	
	スブラス・マレット大学 (Universitas Sebelas Maret)	2019.10.10	
韓国	仁荷大学校 (Inha University)	1998.06.25	有
	公州大学校 (Kongju National University)	1999.03.15	有
	韓国外国語大学校 (Hankuk University of Foreign Studies)	2003.12.02	有
	慶尚大学校 (Gyeongsang National University)	2004.11.26	有
	ソウル市立大学校 (University of Seoul)	2009.12.21	有
	昌原大学校 (Changwon National University)	2010.02.10	有
	ソウル大学校 (Seoul National University)	2010.02.11	有
	叵州大学校 (Ajou University)	2010.03.08	有
	梨花女子大学校 (Ewha Womans University)	2010.03.08	有
	群山大学校 (Kunsan National University)	2010.04.26	有
	釜山外国語大学校 (Busan University of Foreign Studies)	2014.12.04	有
	全北大学校 (Chonbuk National University)	2015.09.16	有



国・地域名	機関名（英語表記）	締結年月日	学生交流 覚書
タイ	カセサート大学 (Kasetsart University)	1998.07.03	有
	ソンクラ王子大学 (Prince of Songkla University)	2001.10.29	有
	コンケン大学 (Khon Kaen University)	2001.10.30	有
	チェンマイ大学 (Chiang Mai University)	2001.10.31	有
	シーナカリンウィロート大学 (Srinakharinwirot University)	2001.11.01	有
	タイ国農学研究機構 (Agricultural Research Development Agency)	2008.08.27	
	チュラロンコン大学 (Chulalongkorn University)	2010.09.14	
	キングモンクット工科大学ラカバン校 (King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang)	2018.08.10	
中国	山東大学 (Shandong University)	1983.06.02	有
	北京師範大学 (Beijing Normal University)	2004.02.09	有
	武漢理工大学 (Wuhan University of Technology)	2004.05.20	有
	貴州大学 (Guizhou University)	2005.03.25	有
	重慶理工大学 (Chongqing University of Technology)	2010.11.19	有
	首都師範大学 (Capital Normal University)	2011.10.17	有
	江蘇大学 (Jiangsu University)	2013.09.03	有
	大連外国語大学 (Dalian University of Foreign Languages)	2013.12.30	有
	西安交通大学 (Xi'an Jiaotong University)	2015.04.28	有
	香港樹仁大学 (Hong Kong Shue Yan University)	2015.07.20	有
	香港教育大学 (The Education University of Hong Kong)	2015.09.02	有
	遼寧師範大学 (Liaoning Normal University)	2016.03.15	有
	浙江理工大学 (Zhejiang Sci-Tech University)	2017.01.03	有
	湖州師範大学 (Huzhou University)	2017.02.28	有
	大連理工大学 Dalian University of Technology	2021.06.09	有
長江大学 Yangtze University	2022.10.03	有	
台湾	国立中興大学 (National Chung Hsing University)	2006.03.09	有
	東海大学 (Tunghai University)	2009.09.30	有
	逢甲大学 (Feng Chia University)	2009.09.30	有
	大葉大学 (Dayeh University)	2009.09.30	有

国・地域名	機関名（英語表記）	締結年月日	学生交流 覚書
台湾	静宜大学 (Providence University)	2009.09.30	有
	開南大学 (Kainan University)	2012.10.15	有
	国立高雄師範大学 (National Kaohsiung Normal University)	2014.11.18	有
	淡江大学 (Tamkang University)	2016.12.29	有
ベトナム	カントー大学 (Can Tho University)	2011.11.16	有
	ベトナム国立農業大学 (Vietnam National University of Agriculture)	2012.03.29	有
	ベトナム国家大学ホーチミン市校 国際大学 (International University - Vietnam National University in Ho Chi Minh City)	2015.07.21	有
	国立ハノイ教育大学 (Hanoi National University of Education)	2015.07.22	有
	東部国際大学 (Eastern International University)	2015.12.07	有
	ダナン科学技術大学 (University of Science and Technology, The University of Danang)	2017.07.05	有
マレーシア	サラワク大学 (University Malaysia Sarawak)	2012.03.29	有
	マレーシア工科大学 (University of Technology, Malaysia)	2012.09.05	有
	クアラルンプール大学 (University of Kuala Lumpur)	2016.07.13	有
	マラ工科大学 (University of Technology MARA)	2017.07.05	有
ラオス	ラオス国立大学 (National University of Laos)	2012.04.12	有
ミャンマー	イエジン農業大学 (Yezin Agricultural University)	2015.01.12	
イギリス	シェフィールド大学 (University of Sheffield)	1997.11.28	有
	ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン (University College London)	2007.11.19	
	セントラル・ランカシャー大学 (University of Central Lancashire)	2012.11.05	協定書内に 記載有
	エディンバラ大学 (The University of Edinburgh)	2018.11.12	
	バース大学 (University of Bath)	2019.08.05	有 (医学部)
ドイツ	フリードリヒ・アレクサンダー大学 エアランゲン・ニュルンベルク (Friedrich-Alexander University Erlangen- Nuremberg)	2003.03.17	有
	ホフ大学 (Hof University of Applied Sciences)	2015.03.16	有
	ベルリン・ボイト工科大学 (Berlin University of Applied Sciences and Technology)	2015.08.17	有
フランス	リール大学 (The University of Lille)	2015.10.16	有
	リール・カトリック大学 (Lille Catholic University)	2016.01.20	有

国・地域名	機関名（英語表記）	締結年月日	学生交流 覚書
フランス	ボルドー大学 (The University of Bordeaux)	2019.09.13	有
スペイン	サラゴサ大学 (University of Zaragoza)	2014.11.27	有
	バルセロナ自治大学 (Autonomous University of Barcelona)	2015.09.14	
	ハイメ I 世大学 (Jaume I University)	2017.10.26	有
ハンガリー	エトヴェシュ・ロラーンド大学 (Eotvos Lorand University)	2015.05.25	協定書内に 記載有
	カーロリ大学 (Károli Gáspár University of the Reformed Church in Hungary)	2015.08.18	有 (国際総合 科学部)
ロシア	モスクワ大学 (M.V. Lomonosov Moscow State University)	2015.03.05	
	ロシア工科大学 (MIREA - Russian Technological University)	2015.11.26	
	ロシア国立農業大学 モスクワ・ティミリャーゼフ農業アカデミー (Russian State Agrarian University - Moscow Timiryazev Agricultural Academy)	2017.09.07	
リトアニア	ヴィータウタス・マグヌス大学 (Vytautas Magnus University)	2015.09.03	有
デンマーク	サザンデンマーク大学 (University of Southern Denmark)	2016.05.26	有
アメリカ 合衆国	オクラホマ大学 (University of Oklahoma)	1996.02.19	有
	ハワイ大学ヒロ校 (University of Hawai'i at Hilo)	2015.02.25	
	中央フロリダ大学 (University of Central Florida)	2015.04.16	有
	カリフォルニア州立大学ポリテック大学ポモナ校 (California State Polytechnic University, Pomona)	2015.03.20	
	フィッチバーグ州立大学 (Fitchburg State University)	2015.12.21	有
	イーストウエストセンター (East-West Center)	2018.05.16	
	ハワイ大学カウアイ・コミュニティ・カレッジ (University of Hawai'i Kaua'i Community College)	2018.08.07	有
	マンハッタンビル大学 (Manhattanville College)	2016.07.19	有
	ハワイ大学カピオラニコミュニティカレッジ (University of Hawai'i Kapi'olani Community College)	2019.05.13	
	北アリゾナ大学 Northern Arizona University	2022.04.28	有
カナダ	リジャイナ大学 (University of Regina)	1996.02.07	有
チリ	コンセプション大学 (University of Concepcion)	2016.01.13	有
ブラジル	サンパウロ・ボンティフィシア・カトリック大学 (Pontifical Catholic University of São Paulo)	2018.02.27	
ペルー	ラ・モリーナ国立農業大学 (La Molina National Agrarian University)	2017.06.06	有
	国立サンマルコス大学 (National University of San Marcos)	2017.08.28	有
	サン・イグナシオ・デ・ロヨラ大学 (Saint Ignatius of Loyola University)	2017.08.29	有

国・地域名	機関名（英語表記）	締結年月日	学生交流覚書
ペルー	ペルー国家防災庁 (National Institute of Civil Defense (INDECI))	2017.08.29	
オーストラリア	ニューカッスル大学 (University of Newcastle)	2003.08.08	有
	シドニー工科大学 (University of Technology, Sydney)	2012.05.30	有

(3) 部局等間国際交流協定

国・地域名	締結部局	機関名（英語表記）	締結年月日	学生交流覚書
インドネシア	工学部	マランイスラム大学 医学部 (Faculty of Medicine, Islamic University of Malang)	2014.06.27	
		マランイスラム大学 農学部 (Faculty of Agriculture, Islamic University of Malang)	2014.06.27	
		マランイスラム大学 工学部 (Faculty of Engineering, Islamic University of Malang)	2015.07.31	
		リアウ大学 工学部 (Faculty of Engineering, Riau University)	2014.12.24	有
	共同獣医学部	アイルランガ大学 獣医学部 (Faculty of Veterinary Medicine, Airlangga University)	2018.07.04	有
	理工学研究科	国家防災庁 データ・情報・広報センター (Center of Data, Information and Public Relations, National Disaster Management Agency)	2016.01.21	
韓国	理学部	韓国天文研究院 電波天文研究部 (Radio Astronomy Division, Korea Astronomy and Space Science Institute)	2010.03.15	
	工学部	又松大学校 鉄道物流学部 (College of Railroad and Transportation, Woosong University)	2010.02.01	
	医学部	チェジュハラ大学看護学部及び保健学部 (The School of Nursing and school of Health Sciences Cheju Halla University)	2019.06.05	
タイ	医学部	マヒドン大学 看護学部 (Faculty of Nursing, Mahidol University)	2001.03.26	
	農学部	キングモンクット工科大学 トンブリ校 生物資源工学研究科 (School of Bioresources and Technology, King Mongkut's University of Technology Thonburi)	2006.05.23	有
		タクシン大学 技術・地域開発学部 Faculty of Technology and Community Development, Thaksin University)	2012.01.16	
		メージョー大学 農学生産学部 (Faculty of Agricultural Production, Maejo University)	2012.02.23	有
		ラジャマンガラ工科大学 農業産業技術学部 (Faculty of Agro-Industrial Technology, Rajamangala University of Technology Tawan-ok)	2013.07.11	有
		メーファールアン大学 理学部 (School of Science, Mae Fah Luang University)	2016.01.04	有
		スラナリー工科大学 農業技術学部・理学部 (Institute of Agricultural Technology, Institute of Science, Suranaree University of Technology)	2020.10.23	有
	工学部	シラパコーン大学 工学・産業技術学部 (The Faculty of Engineer and Industrial Technology, Silpakorn University)	2019.05.09	
中国	教育学部	復旦大学 情報科学工程学院 (School of Information Science and Engineering, Fudan University)	2005.09.23	有



国・地域名	締結部局	機関名 (英語表記)	締結年月日	学生交流覚書
中国	医学部	大連医科大学 (Dalian Medical University)	2006.12.14	
		香港大学 医学部看護学科 (School of Nursing, LKS Faculty of Medicine, The University of Hong Kong)	2022.11.23	
	工学部	上海交通大学 環境科学与工程学院 (School of Environmental Science and Engineering, Shanghai Jiao Tong University)	2004.02.11	
		西華大学 (Xihua University)	2007.02.05	有
		四川大学錦江学院 (Jinjiang College, Sichuan University)	2019.06.20	有
	国際総合科学部	山東農業大学 外国語学院 (College of Foreign Languages, Shandong Agricultural University)	2016.03.15	有
	東アジア研究科	復旦大学 日本研究センター (Center for Japanese Studies, Fudan University)	2001.10.29	
	経済学部	復旦大学 日本研究センター (Center for Japanese Studies, Fudan University)	2019.11.04	
台湾	経済学部	国立高雄餐旅大学 (National Kaohsiung University of Hospitality and Tourism)	2012.03.09	有
	医学部	国立台湾大学 医学院 (College of Medicine, National Taiwan University)	2009.04.01	
	理学部	国立台湾大学 理学院 (College of Science, National Taiwan University)	2017.5.22	
		台湾師範大学 理学院 (College of Science, National Taiwan Normal University)	2016.12.30	
	教育学部	淡江大学 文學院 (College of Liberal Arts, Tamkang University)	2013.07.23	有
	人文学部	東呉大学 人文社会学院 (School of Liberal Arts and Social Sciences, Soochow University)	2014.09.19	
マレーシア	工学部	ペトロナス工科大学 (Petronas Technological University)	2018.10.11	有
		マレーシア・プトラ大学 (University Putra Malaysia)	2020.03.26	
		トゥンフセイオンマレーシア大学 (Universiti Tun Hussein Onn Malaysia)	2020.04.30	
モンゴル	共同獣医学部	モンゴル国立生命科学大学獣医学研究所 (Institute of Veterinary Medicine, Mongolian University of Life Sciences)	2015.11.13	
	工学部	モンゴル国立大学工学応用科学部 School of Engineering and Applied Sciences, National University of Mongolia	2021.05.10	有
	工学部	モンゴル国立大学文理学部 School of Arts and Sciences, National University of Mongolia	2021.05.10	有
ネパール	連合獣医学研究科	農業林業大学 畜産獣医水産学部 (Faculty of Animal Science, Veterinary Science and Fisheries, Agriculture and Forestry University)	2015.03.05	
	経済学部	ネパール行政職員大学 (The Nepal Administrative Staff College)	2020.01.24	

国・地域名	締結部局	機関名 (英語表記)	締結年月日	学生交流覚書
バングラデシュ	理学部	バングラデシュ核エネルギー・食物・放射線生物学研究所 (Institute of Food and Radiation Biology, Atomic Energy Research Establishment)	2000.05.04	
	農学部	ジャハンギナガル大学 生物科学部 (Faculty of Biological Science, Jahangirnagar University)	2012.03.06	有
	共同獣医学部	バングラデシュ農業大学 Faculty of Veterinary Science, Bangladesh Agricultural University	2021.08.10	
ベトナム	共同獣医学部	ベトナム農業農村開発省畜産研究所 (National Institute of Animal Science, Ministry of Agriculture and Rural Development)	2012.07.24	
	工学部	フエ大学 理学部 (Hue University of Sciences, Hue University)	2017.04.18	有
スリランカ	農学部	スリランカ農業局及びペラデニア大学農学研究科 (Department of Agriculture, Sri Lanka & Postgraduate Institute of Agriculture, University of Peradeniya)	2016.03.03	
	技術経営研究科	ケラニヤ大学 (University of Kelaniya)	2023.02.22	有
インド	経済学部	カルカッタ大学 経済学部 (Department of Economics, University of Calcutta)	2019.02.08	
		カルカッタ大学 商学・福祉・経営学群 (Faculty of Commerce, Social Welfare and Business Management, University of Calcutta)	2019.02.08	
	工学部	クルクシェトラ工科大学 (National Institute of Technology, Kurukshetra)	2017.01.11	
フィリピン	共同獣医学部	ダバオ・オリエンタル州立大学 海浜生物環境センター (Regional Integrated Coastal Resource Management Center-RegionXI of the Davao Oriental State University)	2019.09.23	
トルコ	工学部	シェヒル大学 工学・自然科学部 (College of Engineering and Natural Sciences, Istanbul Sehir University)	2017.04.19	有
	経済学部	カディル・ハス大学 経済・行政・社会科学部 (The Faculty of Economics, Administrative and Social Sciences, Kadir Has University)	2019.06.29	有
ウクライナ	教育学部	イヴァン・フランコ記念リヴィウ国立大学 (Ivan Franko National University of Lviv)	2004.11.16	有
イギリス	工学部	ブリストル大学 工学部 (Faculty of Engineering, University of Bristol)	2010.03.01	
ロシア	医学部	カザン医科大学 (Kazan State Medical University)	2012.12.17	
ポルトガル	工学部	新リスボン大学 理工学部 (Faculty of Science and Technology, New University of Lisbon)	2013.08.08	有
スペイン	工学部	カンタブリア大学 産業工学通信学部 (School of Industrial Engineering and Telecommunications, University of Cantabria)	2015.02.25	有
オランダ	農学部	ワーゲニンゲン大学 オランダ大遺伝資源センター (Centre for Genetic Resources, the Netherlands (CGN))	2017.04.01	
ケニア	共同獣医学部	ナイロビ大学 獣医学部 (Faculty of Veterinary Medicine, University of Nairobi)	2017.06.30	

国・地域名	締結部局	機関名 (英語表記)	締結年月日	学生交流覚書
アメリカ合衆国	国際総合科学部	エルジンコミュニティカレッジ (Elgin Community College)	2015.07.28	協定書内に記載有
	医学部	シティ オブ ホープ (City of Hope)	2017.08.01	
カナダ	医学部	ニューファンドランドメモリアル大学 (Memorial University of Newfoundland)	2019.07.09	有
アルゼンチン	農学部	ラプラタ大学 理学部 (Faculty of Science, National University of La Plata)	2011.04.27	
		公立ミシオネス大学 精密自然科学部 (Faculty of Exact, Chemical and Natural Sciences, National University of Misiones)	2018.10.16	
オーストラリア	共同獣医学部	西オーストラリア大学 農学研究科 (The UWA Institute of Agriculture, University of Western Australia)	2015.10.22	
ニュージーランド	農学部	ニュージーランド作物・食物研究所 (New Zealand Institute for Plant & Food Research Limited)	2008.09.03	
	経済学部	ワイカト大学会計・ファイナンス・経済学部 (School of Accounting, Finance, and Economics, The University of Waikato)	2019.09.20	

#### 4. 海外拠点

本学では海外協定校の協力のもと、外国の教育研究機関との相互交流の推進及び本学の情報発信等を目的とし、6カ国・地域の計6ヶ所に国際連携オフィスを設置している。その内インドネシア、台湾、マレーシア、タイの4つの拠点事務所に現地スタッフを配置し、現地の優秀な学生獲得に向けた広報活動、本学派遣学生の留学支援や同窓会活動の支援等を行っている。

また、本学の大学等間国際交流協定校であるガジャマダ大学（インドネシア・ジョグジャカルタ）に、両大学間で特に交流の深い獣医学分野を中心に本学のインドネシアでの拠点として、国際共同事務局を開設している。

① 「山口大学 山東国際連携オフィス」

住所：中国 250100 山東省済南山大南路 27 号 山東大学内

② 「山口大学 バリ国際連携オフィス」

住所：Udayana University

Jl.P.B Sudirman Campus Gedung FISIP 2F Denpasar Bali Indonesia

③ 「山口大学 台湾国際連携オフィス」

住所：台湾 51591 彰化県大村郷学府路 168 号 大葉大学内

④ 「山口大学 クアラルンプール国際連携オフィス」

住所：Malaysia-Japan International Institute of Technology (MJIT)  
Universiti Teknologi Malaysia Kuala Lumpur Campus  
Jalan Sultan Yahya Petra, 54100, Kuala Lumpur Malaysia

⑤ 「山口大学 バンコク国際連携オフィス」

住所：Kasetsart University  
50 Ngam Wong Wan Rd, Ladyao Chatuchak Bangkok, 10900, Thailand

⑥ 「山口大学 ハノイ国際連携オフィス」

住所：Vietnam National University of Agriculture  
Trau Quy-Gia Lam-Ha Noi-Viet Nam

(国際共同事務局)

「山口大学・ガジャマダ大学国際共同事務局」

住所：Universitas Gadjah Mada  
Jl. Fauna No.2, Karangmalang, Yogyakarta, Indoensia

## 5. 本部への海外からの来訪者

日時	訪問者	国・地域
2022.08.29	ホノルル山口県人会：ゲイル ワカタケ 会長 (他 8名) カウアイ山口県人会：シェリル シンタニ 会長 等 (他 2名)	アメリカ 合衆国
2022.09.12	シーナカリンウィロート大学 チョムチャノック 社会科学学部地理学科長 (他 7名)	タイ
2022.09.27	ウダヤナ大学：I Wayan Arthana 水産学部教授 (他 3名)	インドネシア
2022.11.08	英国大使館 ジュリアン・ロングボトム 駐日英国大使	イギリス
2022.12.9 ～ 2022.12.23	ハイメ 1 世大学 Mr. Juan María Beltrán Ferre (ハイメ 1 世大学 スポーツセンター チーフアカウンタント)	スペイン
2023.1.12	釜山外国語大学校 平中 ゆかり 日本語融合学部 教授 鄭容官(ジョン・ヨンガン) 国際学生支援チーム 日本担当	中国
2023.2.14	JICA 草の根事業に係る研修での来学 Ms.Wibawanti Wulandari (グヌンキドゥル県畜産振興部長) Ms.Retno Widyastuti (グヌンキドゥル県畜産振興部家畜診療 課長)	インドネシア



2023.3.3	ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン David E.Alexander 教授（他 2 名）	イギリス
2023.3.9	香港大学 Dr. Polly Chan （講師 Senior Lecturer） Dr. John Fung （講師 Lecturer） Dr. Esther Lo （講師 Lecturer）	中国
2023.3.14	ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン 安部 祥依 様（語学・国際教育センター）	イギリス
2023.3.24	カセサート大学 Chongrak Wachrinrat 学長（他 10 名）	タイ

## 6. 本学学長の海外訪問

訪問日程	訪問先・内容（訪問者）	国・地域名
2023.2.1～ 2023.2.2	・カセサート大学 80 周年記念式典 ・山口大学 バンコク国際連携オフィス	タイ

## 7. 国際ネットワークとの連携

### ◆ 連携している国際ネットワーク ◆

- ・独立行政法人 国際協力機構（JICA）

学生に国際協力や途上国について学ぶ機会を提供し、将来の国際協力人材の掘り起こしにつながることを目的として、定期的に JICA と共催でトークイベントを開催した。イベントには多くの学生が参加し、国際協力について多くの質問が寄せられ、意見交換を行った。

### ◆ 加入している大学連絡会 ◆

- ・日本・アフリカ大学連携ネットワーク（JAAN）
- ・在欧日本学術拠点ネットワーク（JANET）
- ・在タイ大学連絡会（JUNThai）
- ・日中高等教育交流連絡会（希平会）
- ・ミャンマー人材育成支援のための産学連携プラットフォーム

## 8. 研究者の交流

大学の主要な活動である研究においては、海外でのデータの収集、海外機関との研究交流による研究の加速化と精度の向上は不可欠である。そのため、毎年多くの教員、研究者を海外に派遣し、また山口大学にも多くの海外の大学教員、研究者を受け入れている。2022 年

度は、226名の教員を上記の目的で海外に派遣することが出来た。また、外国人研究者の受入れに関しては、57名を受け入れた。

※人数の把握は、「国立大学法人山口大学海外渡航事務取扱要領」及び「国立大学法人山口大学外国人研究者規則」による。

### 重点連携大学事業について

本学では、研究分野を主体とした国際連携活動を強化することにより大学の研究レベルの高度化を図ると共に、学術を通じた教育支援及び国際貢献を行うことを目的として、特に本学の研究力向上につながることを期待できる海外の大学を重点連携大学として選定し、選定大学との国際連携活動に対して支援を行っている。

各研究グループにおいては、例年、本事業の主目的である「国際共著論文数」の増加を図るため、教職員及び学生の重点連携大学等との相互派遣を実施する等、共同研究及び人材交流を進めてきた。2021年度までは、新型コロナウイルス感染症流行の影響を受け、相互派遣が実施できていない状況であったが、2022年度は、相互派遣の実施が徐々に回復し、また、引き続き、オンライン等を活用した国際シンポジウムを開催するなど、各研究グループで交流を実施した。このような研究交流活動の成果として発表された国際共著論文は、2022年度は27件であった。

## 9. 職員の研修

### (1) 山口大学海外派遣 SD（スタッフ・ディベロップメント）研修

山口大学基金の支援を受け、毎年以下のとおり事務系職員を1週間程度海外に派遣し、海外の大学における管理方法、研究・教育支援体制を学ぶほか、職員の外国語能力の向上やグローバルマインドの醸成に努めている。2022年度は、2021年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、派遣を実施しなかった。

なお、SD研修が開始された2004年からの派遣実績は次表のとおりである。

年度	派遣者数	派遣国	派遣大学
2004	2	アメリカ	オクラホマ大学
		イギリス	シェフィールド大学
2005	2	アメリカ	ハワイ大学
		イギリス	シェフィールド大学
2006	2	カナダ	リジャイナ大学
		ドイツ	フリードリヒ・アレクサンダー大学 エアランゲン・ニュルンベルク
2007	2	アメリカ	オクラホマ大学
		オーストラリア	ニューカッスル大学
2008	2	中国	山東大学, 香港中文大学
2009	2	中国	山東大学

年度	派遣者数	派遣国	派遣大学
2010	4	中国	山東大学
		台湾	大葉大学ほか
		インドネシア	ウダヤナ大学
2011	3	中国	山東大学
		インドネシア	ガジャマダ大学
2012	4	中国	山東大学
		台湾	大葉大学
		インドネシア	ガジャマダ大学
2013	13	中国	山東大学
		台湾	大葉大学
		インドネシア	ウダヤナ大学
		ベトナム	ハノイ農業大学,カントー大学
		タイ	カセサート大学,ラジャマンガラ工科大学
2014	16	中国	山東大学
		台湾	大葉大学
		インドネシア	ウダヤナ大学,ガジャマダ大学
		オーストラリア	シドニー工科大学,ニューカッスル大学
		カナダ	リジャイナ大学
		タイ	チェンマイ大学,シーナカリンウィロート大学
		マレーシア	マレーシア工科大学,マレーシア日本国際工科院
2015	13	中国	山東大学
		台湾	大葉大学,東海大学,静宜大学
		タイ	チュロンコン大学,カセサート大学
		マレーシア	マレーシア工科大学,マレーシア国際工科院
		インドネシア	バンドン工科大学,ウダヤナ大学,国際交流基金ジャカルタ 日本文化センター,インドネシア大学,ダルマブルサダ大学
		オーストラリア	ニューカッスル大学,シドニー工科大学
		イギリス	ブリストル大学,サリー大学,セントラルランカシャー大学, JSPS ロンドン
		ドイツ	フリードリヒ・アレクサンダー大学 エアランゲン・ニュルンベルク

年度	派遣者数	派遣国	派遣大学
2016	9	中国	大連外国語大学,山東大学,APU 上海オフィス
		台湾	大葉大学,国立中興大学,東海大学
		タイ	チェンマイ大学,カセサート大学,シーナカリンウイロート大学, チュロンコン大学
		インドネシア	インドネシア大学,ガジャマダ大学,ウダヤナ大学, APU ジャカルタオフィス
2017	3	中国	山東大学
		タイ	チェンマイ大学,カセサート大学
2018	2	中国	山東大学
2019	3	中国	山東大学
		イギリス	バース大学,ブリストル大学,セントラルランカシャー大学
2020	※新型コロナウイルス感染症拡大の影響のため実施なし		
2021			
2022			

## (2) 山口大学業務英語能力向上研修

本学では、外国人留学生及び研究者の生活、教育、研究の支援や、部局等の国際交流を担当できる事務職員の育成を目指し、2010 年度から、外国人対応の業務に必要なコミュニケーション能力の習得及び英語能力向上を目指し職員研修を行っている。

本学の第 3 期中期目標・中期計画に掲げた「TOEIC スコア 800 点相当以上の職員を 5% 以上とする」という数値目標を 2018 年度に達成しており、次の段階として、大学の国際化の進展に伴い、日常業務において英語を使用する頻度が従前に比べ高まっていることから、2022 年度は事務職員の英語運用能力の底上げを図るため、受講者のレベル・ニーズ・時間に合わせてインプット・アウトプット学習ができる各種学習ツール（携帯アプリ・オンラインコンテンツ）を活用した、「話す・聞く・読む・書く」の英語 4 技能の向上を図る自己学習型研修を実施した。

## 10. 学内の国際化推進体制の整備

全学で学内文書の英語化を進めており、2021 年度に引き続いて、2022 年度は下記のとおり 8 件の文書の英語化を実施した。

2022 年度 学内文書英語化 実施文書一覧	
No.	文書名
1	職域接種
2	職員健康診断 Web 問診



No.	文書名
3	学生健康診断に関する書類
4	女性限定公募時の公募文書
5	特定業務（有害業務）従事者 調査関連
6	入学式・卒業式 周知文書
7	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に関する注意喚起について（第18報）
8	SOGIガイドラインの改訂

## 11. 海外同窓会活動

2022年度は、新型コロナウイルス感染症による制限の影響により、活動を実施しなかった。

## 第 2 章 2022 年度の留学生部門の活動

## 第2章 2022年度の留学生部門の活動

2022年度の留学生総数は367名（2022年5月1日時点）であり、前年度より8名増加した（図1）。地域別ではアジア圏からの留学生数が上位を占めており（図2）、その中でも中国からの留学が最も多い（図3）。

交換留学に関しては、2021年度から、派遣先の新型コロナウイルス感染状況、医療体制等を検証し、長期留学から海外派遣を再開していたが、2022年度は新型コロナウイルスの感染状況が収束したこともあり、派遣学生数は約3倍に増加した。また、受入についても日本政府の水際対策が緩和されたため、2022年秋期から留学生数が増加した。

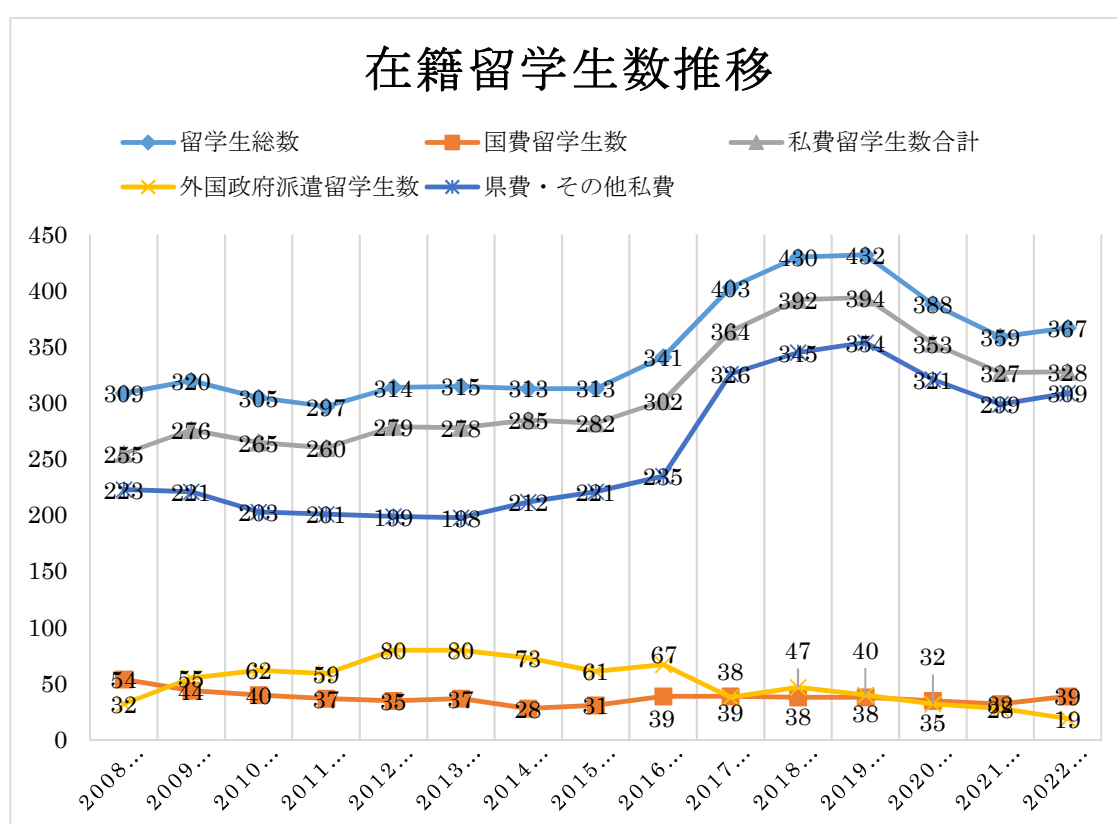


図1 在籍留学生数推移

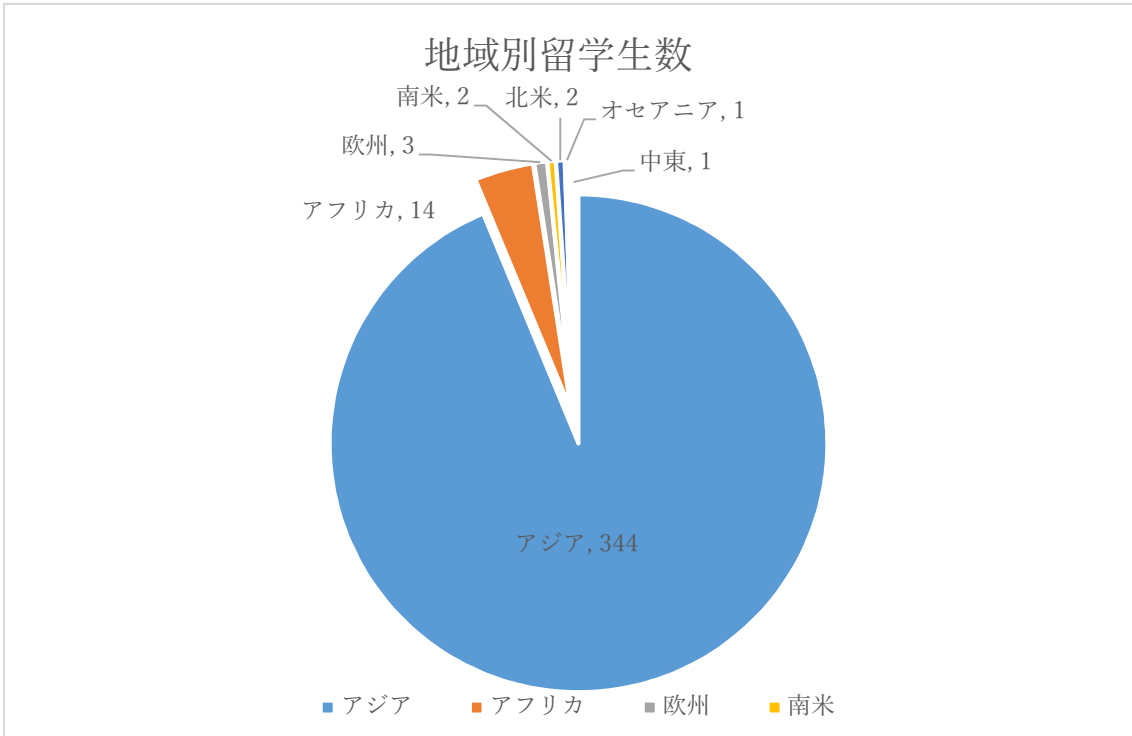


図2 地域別留学生数

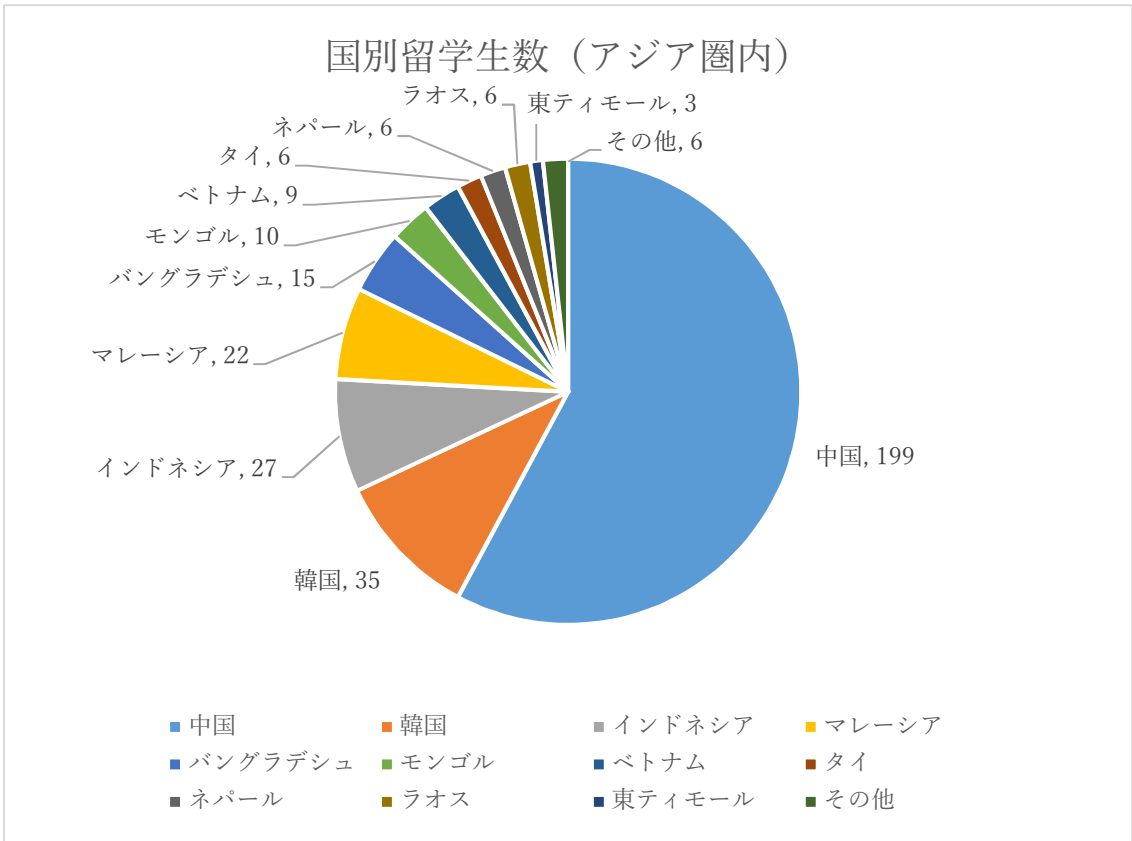


図3 国別留学生数（アジア圏内）



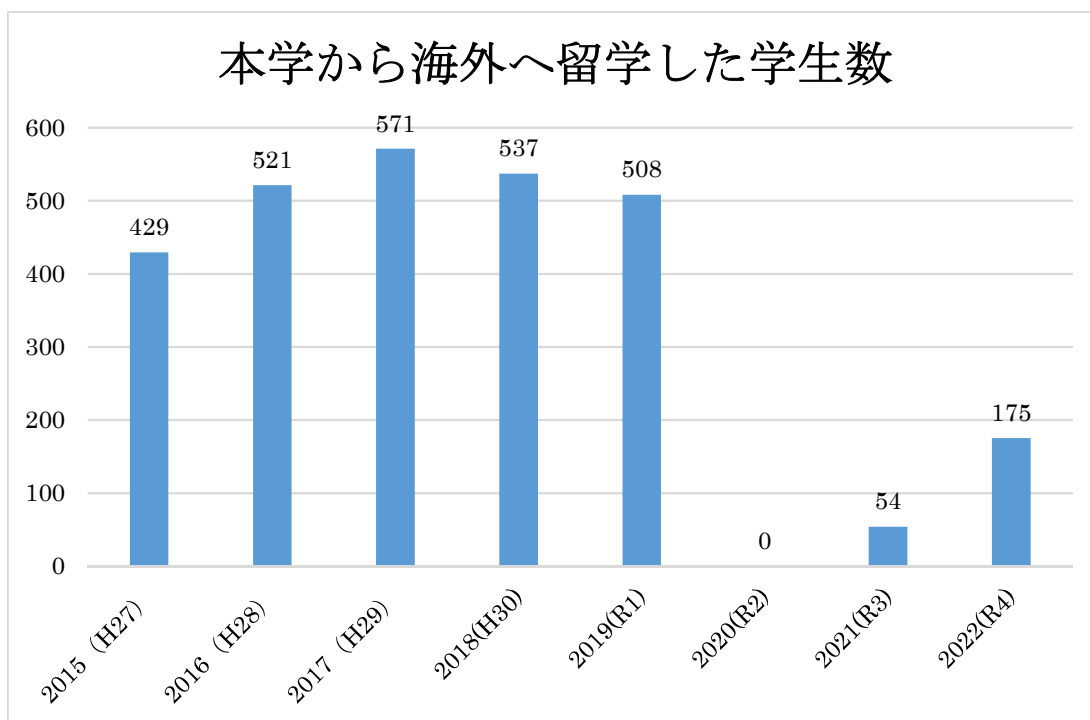


図4 本学から海外へ留学した学生数  
 (※独立行政法人 日本学生支援機構の「留学生調査」の集計基準に準ずる)

## 1. 留学促進のための環境整備

### (1) IELTS 学内受験の実施

2019年度より、全学生を対象に IELTS の学内受験を開始し、2022年度は11月と12月に実施した。2021年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響から試験実施規模が縮小されていたが、2022年度は例年通り、年に2度実施となり、合計で74名が受験した。

### (2) 留学生サポーター活動

2017年度に立ち上げた「留学生サポーター」は、2022年度も前期108名、後期115名と、多くの学生が登録し活動した。2022年度は本格的に留学生が渡日できるようになったため、吉田及び常盤キャンパスに拠点を置き、感染症対策を徹底したうえで、様々な交流活動を行い、コロナ禍及び山口での生活になじめるよう支援した。

## 2. 海外学生交流促進のための広報活動

### (1) 日本人学生向けの留学フェアの開催

12月15日～12月16日に「留学フェア」を開催した。2022年度は留学経験者による留学体験談発表のほか、公益社団法人青年海外協力協会と連携し、青年海外協力隊の体験談発表等、幅広く海外体験について、情報提供を行った。また、海外の協定大学であるハイメ1世大学からコーディネーターを招き、同大学への留学について紹介する説明会を実施した。

## 3. 留学生センターにおける学生派遣

### (1) 海外の協定校が実施する短期語学研修の再開

新型コロナウイルス感染症拡大の影響から中止されていた海外の協定校の長期休暇中の短期語学研修が一部再開されたため、2022年度は改めて感染症拡大防止の指導を徹底するとともに、学生の派遣を再開した。

派遣を再開した協定校と派遣人数は以下のとおりである。

ニューカッスル大学	1名	(春期)
リジャイナ大学	3名	(夏期)
	9名	(春期)

### (2) 海外派遣の再開

2021年度に長期留学から再開された学生の派遣であるが、2022年度は一部の海外の協定校が長期休暇の短期研修を再開したため、これらの研修への学生派遣も再開した。また、長期留学に関しても多くの国の水際対策が緩和されたため、一部の国を除き、派遣を再開した。派遣人数はコロナ禍前の水準に大きく近づき、短期派遣計13名、長期派遣計91名を派遣した。

### 第3章 2022年度の学術研究部門の国際交流活動

## 第3章 2022年度の学術研究部門の国際交流活動

### 独立行政法人日本学術振興会助成

#### 1. 論文博士号取得希望者に対する支援事業

独立行政法人日本学術振興会が実施する、アジア・アフリカ諸国の優れた研究者が、日本の大学において大学院の課程によらず論文提出によって博士の学位を取得できるように支援する事業。

- 【研究課題】 タイのボルボックス目藻類のゲノム系統解析:有性生殖の進化と多様性の解明
- 【研究期間】 令和2022年4月1日～令和2025年3月31日
- 【山口大学実施部局】 大学院創成科学研究科(理学系)
- 【山口大学担当教員】 三角 修己(教授)
- 【相手方参加者】 Wirawan Heman (講師)
- 【相手方機関名(国・地域名)] カーラシン大学(タイ)

#### 2. 二国間交流事業(共同研究・セミナー)

独立行政法人日本学術振興会が実施する、個々の研究者交流を発展させた二国間の研究チームの持続的ネットワーク形成を目指し、我が国の大学等の優れた研究者(若手研究者を含む)が相手国の研究者と協力して行う共同研究・セミナーの実施に要する経費を支援する事業。

- 【研究課題】 泥炭堆積物の輸送力学の確立  
*Establishment of the coastal peat sediment dynamics*
- 【研究期間】 2020年4月1日～2023年3月31日
- 【山口大学実施部局】 大学院創成科学研究科(工学系)
- 【山口大学担当教員】 山本 浩一(教授)
- 【相手方参加者】 Dr. Eng. Sigit Sutikno
- 【相手方機関名(国・地域名)] Faculty of Engineering, University of Riau (インドネシア)

- 
- 【研究課題】 細胞内寄生菌の感染機構におけるサーチュインの役割  
*The role of sirtuins in infection mechanism of intracellular bacteria*
  - 【研究期間】 2021年4月1日～2023年3月31日
  - 【山口大学実施部局】 共同獣医学部
  - 【山口大学担当教員】 度会 雅久(教授)
  - 【相手方参加者】 Professor, Suk Kim
  - 【相手方機関名(国・地域名)] Gyeongsang National University (韓国)
-



- 【セミナー名】 プレシジョンメディスンと健康科学における人工知能とビッグデータアプローチ  
*Artificial intelligence and big data approaches in precision medicine and health science*
- 【セミナー開催期間】 2022年12月3日～2022年12月4日
- 【山口大学実施部局】 大学院医学系研究科
- 【山口大学担当教員】 浅井 義之（教授）
- 【相手方参加者】 BARILLOT Emmanuel
- 【相手方機関名(国・地域名)】 Institut Curie - INSERM - PSL Research University（フランス）

### 3. 外国人研究者招へい事業

独立行政法人日本学術振興会が実施する、優秀な諸外国の研究者に対し、我が国の大学研究機関等において日本側受入研究者の指導のもとに共同して研究に従事する機会を提供する事業。

- 【研究課題】 酸化シグナルをになう活性カルボニル種の植物細胞での受容機構の解明  
The mechanism of reactive carbonyl species-mediated signaling in plants
- 【研究期間】 2021年11月28日～2023年3月2日
- 【山口大学実施部局】 大学研究推進機構
- 【山口大学担当教員】 真野 純一（教授）
- 【相手方参加者】 Md. Sanaullah Biswas（准教授）
- 【相手方機関名(国・地域名)】 バンガバンドー・シェイク・ムジブル・ラーマン農業大学（バングラデシュ）

- 
- 【研究課題】 Water Supply of the Malaysian Rural Area During Disaster and  
Climate Change Countermeasures
- 【研究期間】 2022年10月3日～2024年10月2日
- 【山口大学実施部局】 山口大学応用衛生リモートセンシング研究センター
- 【山口大学担当教員】 大澤 高浩（教授）
- 【相手方参加者】 Husniyah Binti Mahmud
- 【相手方機関名(国・地域名)】（マレーシア）

- 
- 【研究課題】 A Comparative Study of Japanese Chinese Textbooks and  
Chinese Japanese Textbooks
- 【研究期間】 2022年7月1日～2023年8月31日
- 【山口大学実施部局】 人文学部・人文科学研究科
- 【山口大学担当教員】 更科 慎一（准教授）
- 【相手方参加者】 Wang Jun（講師）
- 【相手方機関名(国・地域名)】 浙江師範大学（中国）

#### 4. 国際共同研究事業

独立行政法人日本学術振興会が実施する、学術研究活動のグローバルな展開に対応するために、海外の学術振興機関との連携のもと、我が国の大学等の優れた研究者が海外の研究者と協力して行う共同研究を推進し、若手研究者の研鑽機会の充実を通じた育成を目的とした事業。

- 【 研 究 課 題 】 神経疾患への血液脳関門破綻の影響  
*The contribution of blood-brain barrier dysfunction to neurological disorders*
- 【 研 究 期 間 】 2023年1月1日～2025年12月31日
- 【山口大学実施部局】 医学部（神経・筋難病治療学講座）
- 【山口大学担当教員】 西原 秀昭（助教）
- 【相手方参加者】 Britta Engelhardt（所長・免疫学教授）
- 【相手方機関名(国・地域名)】 Theodor Kocher Institute, University of Bern（スイス）

## 第4章 2022年度の各部局での国際交流活動

## 第4章 2022年度の各部局での国際交流活動

### 人文学部

#### 国際会議・講演会等（オンラインを含む）

- 世界格局变革期与东亚地区合作发展新动向（2022.11.4-5）  
（主催：中国・山東大学、開催場所：青島工人温泉療養院（オンライン参加）、発表者：小林宏至、発表タイトル：「ネットワーク空間中の民族集団--以全球社会之下的客家话语为例」）
- 2022年度・東アジア比較文化国際学術会議（2022.12.17, 参加者数：22名）
- 第40回山口大学人文学部異文化交流研究施設講演会 「ロシアによるウクライナ戦争―言語の関係を考える―」 講師：茨城キリスト教大学文学部 講師 ジャブコ・ユリヤ(Yuliya Dzyabko)氏（2023.2.11, 参加者数：40名）

### 教育学部

#### 学生国際交流プログラムの実施（オンラインを含む）

- 異文化学習論の授業において、台湾玄奘大学日本語学科学生と山口大学教育学部学生との混合チームでのWeb会議ツールを用いたグループワークを実施した。  
（2022.4.21・5.19・6.16, 参加学生数20名）
- 国際理解教育概説の授業において、4週間にわたり、スウェーデン、ドイツ、ポーランド、ブルガリアの教員養成の学生と教育に関するメッセージによる意見交換とPPTプレゼンテーション資料の作成を実施した。（2023.11.14-12.2, 参加学生数18名）
- 国際理解教育演習の授業において、10週間にわたるポーランドとブルガリアの教員養成の学生との混合チームでの協働を実施。また、初回と最終回の合同プレゼンテーションおよび途中のグループごとのミーティングはWeb会議で実施した。  
（2022.10.28-2023.1.20, 参加学生1名）

#### 国内で国際感覚を育成する取組の実施

- 異文化学習論の授業での異文化共生に関するインドネシア人学生との意見交換を実施した。（2022.7.21, 参加学生25名）
- ホーチミン日本人学校の教員によるオンライン学校見学会を実施した。  
（2022.8.2, 参加学生数：6名）
- 本校家庭科教育法Ⅳの授業の一環で、中国・円台大学の学生とのオンライン国際交流を実施した。（2022.11.2, 参加学生数：11名）
- 大内南小学校の生活科の授業で中国の大学生をゲストに招いた対面による国際交流を

教育学部生が企画・実施した。(2022.11.15, 参加学生数：1名)

- 山口農業高校の家庭科の授業で中国の大学生をゲストに招いたオンライン国際交流を教育学部生が企画・実施した。(2022.11.25, 参加学生数：2名)
- 附属山口小学校の家庭科の授業で中国・韓国の大学生をゲストに招いたオンライン国際交流を教育学部生が企画・実施した。(2022.12.12, 参加学生数：4名)
- 山口農業高校の家庭科の授業で中国の大学生をゲストに招いたオンライン料理教室を教育学部生が企画・実施した。(2022.12.19, 参加学生数：5名)
- 山口農業高校の家庭科の授業で韓国・台湾の大学生をゲストに招いたオンライン国際交流を教育学部生が企画・実施した。(2023.1.20, 参加学生数：5名)
- 附属山口小学校の家庭科の授業で5か国の大学生をゲストに招いたオンライン国際交流を教育学部生が企画・実施した。(2023.1.20, 参加学生数：2名)

#### その他

台湾の淡江大学（本学の大学間交流協定校及び教育学部の学部間交流協定校）との共同WEBジャーナル「JEAI Vol.8」を2023.3.31に公開した。

(<http://ds0n.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~jeai/index.html>)

#### **経済学部**

##### 国際会議・講演会等（オンラインを含む）

- 2023.1.16（月）から31（火）までの間で10日間、2022年度JICA青年研修「イラク／地方行政コース」を実施し、イラク政府及び地方自治体の若手行政官6名が参加した。

##### 学生国際交流プログラムの実施（オンラインを含む）

- 「観光政策学科・海外プロジェクト演習・ハンガリー実地研修」として、カーロリ・ガーシュパール・カルビン派大学日本学部との双方向交流を行った。  
(2023.2.15-26, 参加学生数：9名)
- 「観光政策学科・海外プロジェクト演習・台湾実地研修」として台湾銘傳大学国際企業学部との双方向交流を行った。(2023.3.6-13, 参加学生数：5名)
- 「学生の海外プロジェクト演習・グアム実地研修」として、グアム大学、グアム政府観光局との双方交流を行った。(2023.3.6-12, 参加学生数：9名)

## 理学部

### 国際会議・講演会等（オンラインを含む）

- The Fourth Workshop on Machine Learning and Computing for Visual Semantic Analysis (MLCSA2022) (2022.12.4, 参加者数：30名程度)

### 学生国際交流プログラムの実施（オンラインを含む）

- The 18th Young Scientist Seminar 'Establishment of International Research Network for Bioresources and Their Utilization' (2022.11.27-28, オンライン [使用言語：英語]、参加者数（教員含む）：169名、発表学生 66名)

## 医学部

### 国際会議・講演会等（オンラインを含む）

- City of Hope (米国) 山口陽子教授を招聘し、基盤系特別専門講義「基礎科学研究の推進、その結果としての医薬品開発」を山口大学小串キャンパスで対面にて開催。  
(2022.9.30, 参加人数 110名)
- City of Hope (米国) にて講演会 Beckman Research Institute Seminar Series and Department of Immunology & Theranostics 「Biomedical Applications of Organosilica Nanoparticle: Theranostics and Macrophage Specificity」が対面とオンラインのハイブリッドにて開催され、中村教泰教授が講演を行なった。  
(2023.2.17, 参加者数：数十名)
- JSPS/INSERM 二国間交流事業セミナー  
(プレジジョンメディシンと健康科学における人工知能とビッグデータアプローチ  
(2022.12.3-4, 参加者数：約 50名))

### 学生国際交流プログラムの実施（オンラインを含む）

- アジア・太平洋地域看護・健康科学リーダー育成連携 APAHL フォーラムを開催。  
(タイ・チェンマイ大学) (2023.10.9-12, 参加教員・学生数：約 80名)
- 医学科自己開発コースにおいて、バース大学 (英国)、City of Hope (米国)、ミシガン大学 (米国) に学生各 1名が留学し、研究・社会活動を行った。  
(2022.6月-11月, 参加学生数：3名)

### 国内で国際感覚を養成する取り組みの実施



- バース大学（英国）からの医学部医学科短期研究プログラム  
バース大学（英国）から 2 名の学生をシステムズ再生・病態医化学講座で受入れた。  
(2021.9.1-2022.8.31, 参加学生数：2 名)

#### その他

- 自己開発コース・オンラインミーティング  
海外オリジナルコースでの米国留学に向けて City of Hope (米国)の受け入れ予定の研究者らとのオンライン面談を行った。研究内容の説明と質疑応答・情報交換を行い、受入承諾に向けた準備が進められた。  
(2022.11.18・22, 参加学生数：各 1 名)
- 村上京子教授が香港大学の共同研究者 3 名を招聘し、重点連携プロジェクトの研究推進、緩和ケアセンターおよび保健学科教員との交流を図った。  
(2023.3.7-10, 参加者数：30 名)

#### 工学部

##### 国際会議・講演会等（オンラインを含む）

- Microporous and dense inorganic membranes for membrane separations and membrane reactor applications (2022.8.24, 参加者：34 名)
- Composite/Mixed Matrix Porous Materials in Membrane-Based Processes (2022.9.17-19, 参加者：80 名)
- The 3rd Yamaguchi University - University Tun Hussein Onn Malaysia Joint Seminar 2022 (2022.11.4, 参加者：30 名)
- 群山大学との 14th Joint Seminar (2022.11.28, 参加者：約 50 名)
- International Conference of Innovative Application Research and Education (ICIARE2022) (2022.12.15-18, 参加人数：128 名（うち参加学生数：109 名))
- International Symposium for the Sustainable and Resilient Infrastructure and Environment (2023.1.11・1.18, 参加者：57 名)
- 6th Human Resource Development and Space Data Utilization for Disaster, ウダヤナ大学 (2023.1.27, 参加者数：84 名)
- The 4th International Seminar on Disaster Prevention and Environment (2023.3.2, 参加者：52 名（うちオンライン 37 名, 対面 15 名))
- YU-UCL Symposium“Earth Observations for Disaster Prevention” (2023.3.3, 参加者数：47 名)
- Sustainability and Participation in High Density Housing for Informal Settler

Families in Metro Manila (2023.3.28, 参加者 : 34 名)

学生国際交流プログラムの実施 (オンラインを含む)

- Summer Program for Innovative Engineering Design (SP!ED) 2022 (2022.8.19-25, 参加者 : 73 名 (うち参加学生数 : 60 名))
- Creative Engineering Design Competition (CEDC2022) (2022.12.15-18, 参加人数 : 128 名 (うち参加学生数 : 109 名))
- The Deep Learning Joint Workshop between Udayana University and Yamaguchi University (2023.2.14・22・24, 参加者 : 15 名 (うち学生数 : 12 名))
- JST さくらサイエンスプログラム「リモートセンシングとAIによる先端情報処理技術に関する学習と体験」(マレーシア国立マレーシアプトラ大学 (UPM) (2023.3.5-11, 参加者数 : 3 名 (うち参加学生数 : 2 名)))
- 新リスボン大学 (ポルトガル) 技術研修派遣 (2023.3.13-30, 参加学生 : 3 名)
- 2022 年度 工学教育研究センター主催海外研修プログラム (参加学生 : 39 名)
  - (1) 新長州五傑 : グローカルエンジニアを育成する海外語学研修 (参加学生 : 23 名)
    - イギリス・ユニバーシティカレッジロンドン (2022.8.22-9.12, 参加学生 : 12 名)
    - イギリス・シェフィールド大学 (2022.8.8-9.2, 参加学生 : 1 名 2023.2.13-3.10, 参加学生 : 1 名, 2023.2-13-3.17, 参加学生 : 1 名) 参加学生合計 : 3 名
    - オーストラリア・ウーロンゴン大学 (2022.8.20-10.3, 参加学生 1 名 2023.2.24-4.10, 参加学生 3 名, 2023.2.24-2024.8.16, 参加学生 1 名) 参加学生合計 : 5 名
    - ベトナム・東部国際大学 (2023.2.19-3.26, 参加学生 : 3 名)
  - (2) SDGs2030 年に向けたビジョンを描くグローバルエンジニアを育成する海外技術研修 (参加学生 : 13 名)
    - タイ・カセサート大学 (2022.8.17-9.22, 参加学生 5 名 2022.8.18-25, 参加学生 1 名) 参加学生合計 6 名
    - タイ・チュラロンコン大学 (2022.8.1-9.16, 参加学生 : 1 名)
    - タイ・シーナカリン・ウィロート大学 (2022.9.21-10.27, 参加学生 : 1 名)
    - インドネシア・ブンカリス高専&リアウ大学 (2022.8.12-23, 参加学生 : 2 名)
    - ポルトガル・新リスボン大学 (2023.3.14-28, 参加学生 : 1 名 2023.3.14-21, 参加学生 2 名) 参加学生合計 3 名
  - (3) メタバース留学 (VR を活用したオンライン語学留学) (参加学生 : 3 名)
    - イギリス・シェフィールド大学 (2022.10.14-12.16 (twice a week, 16 hours in total))

#### 国内で国際感覚を育成する取組の実施

- イギリス・シェフィールド大学, メタバース留学体験 (2022.4月・10月・2023.1月, 参加学生: 8名)
- イギリス・シェフィールド大学, オープンキャンパスメタバース留学体験 (2022.8月, 参加学生: 22名)

#### その他

- 工学部オンラインシンポジウム等支援事業の実施  
新型コロナウイルス感染症の流行により、海外の大学との交流活動を継続するため、昨年度に引き続きオンラインシンポジウム等の開催に係る経費の一部補助する支援事業を行った。8月から募集を開始し、令和4年度中に開催し、共同研究や国際共著論文の呼び水となる計画のシンポジウム等4件を採択した。

#### 農学部

##### 国際会議・講演会等 (オンラインを含む)

- 第19回 Young Scientist Seminar (YSS) (オンライン, 2022.11.26-27, 参加学生等 (若手研究者含む): 177名)

##### 学生国際交流プログラムの実施 (オンラインを含む)

- 学生支援機構 (JASSO)・ショートステイ・ショートビジット (SSSV) プログラム  
派遣学生4名 (約1ヶ月間)、受入学生6名 (タイ4名, インドネシア1名, ベトナム1名: それぞれ約2ヶ月間)

#### 国内で国際感覚を養成する取り組みの実施

- 国際連携農学生命科学専攻ジョイント・ディグリー・プログラム (2022年度: 山口大学学生2名, タイ・カセサート大学学生3名)  
本学学生2名が8~9月にタイへ渡航、カセサート大学に滞在し、またカセサート大学生2名が11~2月、本学に滞在した。各大学での滞在中は受け入れ教員の研究室に所属し研究活動を行った。
- ドイツ・ボイト工科大学から学生を1名受け入れた。 (2022.10月-2023.8月)

2022年度は主に農学部の講義を聴講した。研究室に属しているので、2023年度は主に研究活動を行う予定である。

#### その他

- SDGs への取り組み
  - フードバンクの研究
  - 地球温暖化に対応した新しい野菜品種の開発
  - 水欠乏、過湿、高温などの環境ストレスに対する植物の耐性機構に関する研究
  - サンゴの白化現象メカニズム究明と大規模白化に対する生物化学的防止・救済に関する研究
  - 耐熱性微生物の耐熱機構の解析と利用

#### 共同獣医学部

##### 国際会議・講演会等（オンラインを含む）

- JICA 草の根事業 第1回月例セミナー（2022.8.24、参加者数：約400名）
- JICA 草の根事業 第2回月例セミナー（2022.9.30、参加者数：211名）
- JICA 草の根事業 第3回月例セミナー（2022.10.28、参加者数：65名）
- JICA 草の根事業 第4回月例セミナー（2022.11.25、参加者数：94名）
- JICA 草の根事業 第5回月例セミナー（2022.12.23、参加者数：32名）
- JICA 草の根事業 第6回月例セミナー（2023.1.27、参加者数：78名）
- JICA 草の根事業 第7回月例セミナー（2023.2.24、参加者数：118名）
- JICA 草の根事業 人口受精技術講習・超音波診断技術講習（2023.3.14-16）
- The 7th AJIVE（Association of Japan-Indonesia Veterinary Education）Symposium（2023.2.11、主催大学 Hasanuddin University、参加者数：約100人、キーノートプレゼンテーション2題、一般演題44演題、計46題）
- 中高温微生物研究センター病原微生物部門国際シンポジウム～中高温微生物を活用するSDGs人材育成のための国際的な研究拠点形成～※中高温微生物研究センター主催、微生物共同獣医学研究科、共同獣医学部、世界展開力強化事業共催（2023.3.10、参加人数61人）

##### 学生国際交流プログラムの実施（オンラインを含む）

- 【世界展開力強化事業：受入】ナイロビ大学獣医学部（ケニア）より学部生8名を受入れ、現地実習を実施。内容：日本語授業、山口市周辺見学、学外機関での実習、動物感

#### 感染症総合実習 など (2022.9.5-17)

- 【世界展開力強化事業：派遣】共同獣医学部より学部生 4 名をケニアへ派遣。ナイロビ大学にて現地実習を実施。内容：臨床実習参加，学内施設見学，ケニア中央医学研究所 (KEMRI)，長崎大学熱帯医学研究所ケニア拠点 (NUITM)，JICA ケニア事務所訪問 など (2022.10.17-28)
- 【世界展開力強化事業】学生派遣・受入報告会 (2022.12.13、参加学生数：ナイロビ大学生 8 名と共同獣医学部学部生 4 名、山口大学は対面実施・ナイロビ大学とはオンライン接続で実地)
- 【世界展開力強化事業：受入】ナイロビ大学大学院修士学生 1 名を受入れ、実験技術の提供，共同研究を実施。(2023.1.13-2.9)
- 【世界展開力強化事業：派遣】共同獣医学研究科より大学院生 2 名をケニアへ派遣。NUITM にて長崎大学熱帯医学研究所との共同研究を実施。内容：共同研究，ナイロビ大学訪問 など (2023.2.20-3.10)
- 【世界展開力強化事業：派遣】共同獣医学部より学生 4 名をケニアへ派遣。ナイロビ大学にて現地実習を実施 (2023.3.15-29)

#### 国内で国際感覚を養成する取り組みの実施

- 【世界展開力強化事業】第 1 回アフリカフェアとして、共同研究のため招へい中のナイロビ大学共同獣医学部臨床研究科教員 Dr. Peter KIMELI 氏によるケニア紹介セミナーを行い、アフリカとの連携を全学的に広げるための活動の一環として実施。  
(2023.3.13, 参加人数：約 30 人)

#### その他

- 【共同獣医学部】
  - 国費外国人留学生受入れ
    - ガーナ 1 名 (大学推薦 (一般枠)) 2021.10.1-2022.9.30
    - ベトナム 1 名 (大使館推薦) 2021.10.1-2022.9.30
  - Agri-net プログラム (JICA) 受入れ
    - ルワンダ 1 名 2022.4.1-2023.3.31
- 【共同獣医学研究科】

- ・国費外国人留学生受入れ
 

インドネシア 3名 (大学推薦 (特別枠))	2022.4.1~
ガーナ 1名 (大学推薦 (一般枠))	2022.10.1~
ベトナム 1名 (大使館推薦 (一般枠))	2022.10.1~
- ・Agri-Net プログラム(JICA) 受入れ
 

パレスチナ 1名	2022.10.1~
----------	------------
- ・政府派遣留学生受入れ
 

インドネシア 1名	2022.4.1~
-----------	-----------
- ・私費外国人留学生受入れ
 

インドネシア 1名	2022.4.1~
中国 1名	2022.4.1~

## 国際総合科学部

### 学生国際交流プログラムの実施 (オンラインを含む)

- ・ 交換留学プログラムに秋期及び春期併せて 84 名を派遣した。  
(派遣開始時期：2022.7 月末～2023.2 月上旬から半年または 10 か月程度)
- ・ 静宜大学が交換留学プログラムの代替措置として提供した有料プログラムに、交換留学に派遣できなかった学生達が参加し、現地で言語学習に励んだ。  
(2022.2.21-8.19, 参加者数：13 名)

### 国内で国際感覚を養成する取り組みの実施

- ・ コロナ禍の世界情勢により交換留学に派遣できなかった学生及び派遣要件を満たさなかった学生に対して、グローバルイヤーにおけるフィールドワーク支援制度を実施し、2 名を支援した。(両名とも 2023.1.22 に活動を実施)

## 東アジア研究科

### 国際会議・講演会等 (オンラインを含む)

- ・ 「2022 年度東アジア比較文化国際学会議」を実施した。  
(2022.12.17, オンライン, 参加者数：22 名。主催：東アジア研究科比較文化講座)
- ・ 「東アジアにおけるグローバル化と教育・文化」を実施した。  
(2023.2.10, オンライン, 参加者数：約 15 名。主催：東アジア研究科社会システム分



析講座)

- 「東アジアのパンデミック」を実施した。  
(2023.3.18, オンライン, 参加者数: 少なくとも 50~60 名。主催: 東アジア研究科社会動態講座)

### 技術経営研究科

#### 国際会議・講演会等 (オンラインを含む)

- SCSE2022(Smart Computing and Systems Engineering) (2022.8.30-9.1, 参加者: 約 100 名 (うち学生約 50 名, 教員約 50 名) 山口大学, ケラニヤ大学, マラ工科大学)
- MOT 国際シンポジウム ISAME2022 (International Symposium on Asia MOT Education2022) (オンライン) (2023.3.22, 参加数: 180 名)  
参加国: 日本, タイ, ベトナム, インドネシア, マレーシア, スリランカ, ラオス, バングラディシュ, 中国, 香港, ウガンダ, ジンバブエ, リビア, ベナン, トンガ (バンドン工科大学 (インドネシア), ダナン科学技術大学 (ベトナム), マレーシア工科大学, マラ工科大学 (マレーシア), チェンマイ大学 (タイ), 山口大学等)

#### 学生国際交流プログラムの実施 (オンラインを含む)

- YUMOT 短期海外派遣プログラム 2022 in チェンマイ大学, タイ  
(2023.2.26-28, 参加学生数: 8 名)  
チェンマイ大学へ MOT 社会人学生 8 名と教員 2 名を派遣。チェンマイ大学学生 25 名も参加し、合同セッションを実施。

#### その他

- クロスアポイント教員の雇用  
Niyata Kawewong 准教授 チェンマイ大学 (2022.11~12 月, 2023.3 月)  
Fitri Apriliaty 助教 バンドン工科大学 (2022.12 月~2023.2 月)
- 客員研究員の招聘  
Suriyati Chuprat 博士 (マレーシア工科大学) (2023.3 月)
- 部局間交流協定の締結  
ケラニヤ大学 (スリランカ) (2023.2.21 日締結)